先人偉業の碑

今から百六十年程前、私たちの祖先は遠大なる理想を掲げ、有明海の干拓による高道新地を造成した。

文化十三年着手、文政三年完工まで実に五ヶ年、毎日十六キロの道を歩いて往復し、血の滲むような作業を続けた。そして百十ヘクタール余の新しい水田ができ、毎年その得米代が村の収入となった。

村ではその金を積立て、明治四十四年、上坂、坂下両小学校と役場を同時に新築し、大正十四年四月、両校を現在地に移転合併した。

更に、昭和十二年三月、二階建て裏校舎を新築、同時に、他村に先がけて講堂も建設した。これらの費用は全部その積立金から支出されたものである。

昭和二十七年、農地法の施行により自作農創設のため、高道新地は国より買収され、昭和三十年四月、町村合併によって村有財産は南関町に引き継がれた。

そして、この春、体育館新築のため、由緒ある講堂も姿を消し、一抹の寂しさを禁じ得ない。ここにおいて私たちは、歴史の流れと祖先の遺徳を永く後世に伝えるため、せめて残った講堂の土台石を集めてこの碑を建てる。願わくば、この碑を仰いで、祖先に対する報恩感謝の念を新たにして欲しいものである。

昭和五十一年春　坂下区長会

今から１６０年ほど前、私たちの祖先は大きな理想をかかげ、有明海の干拓による高道新地を切り開いた。

文化１３年（１８１５年）にはじまり、文政３年（１８２０年）に完成するまで実に５年ものあいだ、毎日１６kmの道を歩いて往復し、血のにじむような作業を続けた。そして１１０ヘクタールあまりの新しい水田ができ、毎年その得米代が坂下村の収入となった。

坂下村ではそのお金を積み立て、明治４４年（１９１１年）に上坂小学校（場所は八田）と坂下小学校（場所は大場）の二つの学校と村役場を同時に新築し、大正１４年（１９２５年）４月には、２つの学校を合併して現在の場所に移した。

さらに、昭和１２年（１９３７年）３月、二階建て裏校舎を新築し、同時に、他の村に先がけて講堂も建設した。これらの費用は全部その積み立て金が使われたものである。

昭和２７年（１９５２年）、自分で耕作せず人に貸している広い田畑については手放さなければならない法律ができたため、高道新地は国から買い上げられた。昭和３０年（１９５５年）４月には、坂下村の財産は町村合併によって南関町にひきつがれた。

そして、この春（昭和５１年・１９７６年）、体育館新築のため先祖のご苦労によって建てることができた講堂も姿を消し、一抹のさびしさを感じないではいられない。ここにおいて私たちは、歴史の流れと祖先のすばらしい行いを永く後の世に伝えるため、せめて残った講堂の土台の石を集めてこの碑を建てることとした。

この碑を仰いで祖先に対する報恩感謝の念を新たにしてほしいと願うものである。

昭和５１年（１９７６年）春　坂下区長会